



JUMP

令和3年6月1日
札幌市立手稲中央幼稚園
こだま組 学級便り No.3

カエルスペシャル!

1人2匹ずつオタマジャクシを育て始めて一カ月以上になります。子どもたちの中には朝登園するとオタマジャクシを見るのが日課になっている子もいます。うっかり忘れてしまう子も、友達が水替えなどしているのを見てお世話を始めるようになりました。「カエルになったら溺れるから陸を作らなきゃ」と、家から小石を持ってくる子や、少し大きめの入れ物に移し変える子も出てきました。「手が生えた!」という喜びの報告が聞かれる一方で、「カエルになったら生きているエサしか食べないらしい」という話が聞かれるようになりました。

そこで、子どもたちにカエルになったらどうしようか相談を持ちかけました。

【5月21日(金)】

川「今まで食べていた煮干しとかはもう食べないのかな?」

A「大人になったらハエとミミズしか食べないよ」

B「だってカエルになったら肉食になるから…」

川「何も食べなかったら死んじゃうね…どうやったら守ってあげられるかな…」

C「逃がしてあげたらいいんじゃない?」

D「オタマちゃん、あのお家は狭いからかわいそう」

E「大きい入れ物お家から持ってきたら?」

F「逃がしたら水が無くてかわいそうでしょ」

G「川とかに逃がした方がいい」

竹「カエルってどんな所が好きなんだろうね」

B「逃がす時、幼稚園の田んぼに逃がせばいい。だって川だったら死ぬし。波があるから。」

F「逃がしてびよーんで跳んでって車にひかれたら悲しい。せっかく頑張ってるのに…」

C「最初に住たところに逃がしてあげたらいいんじゃない?そこにお世話しに行けばいい」

H「逃がしたら寂しい」

川「確かに…私も玉五郎がいなくなったら寂しい!どうすればいいんだー!」

B「田んぼに水入れてエサとか入れたらいい」

川「林に結構ちっちゃい虫もいるよね」

C「外に逃がしたら鳥に食べられるかも…」

川「ここでお世話したい人、田んぼに帰したい人、元居たところに帰したい人とかいろいろいるね。もう少し育ててまた考えようか。それまではどうする?」

I「ごはんをあげる」J「幼虫!」K「ハエとか、コオロギとか…」B「蚊とか」K「あとはミミズとか」

A「虫網持って林の中でこうやって走ったらいっぱい入ると思うよ」川「いいね!あとでやってみよう!」





その後、今まで虫捕りに興味を示さなかった女の子たちが、靴を泥だらけにして一生懸命ミミズを探す姿がありました。「そら組の a に聞けばミミズのいる場所が分かるはず!」と、日頃からミミズ探しを楽しんでいる他のクラスの子も巻き込んでの活動になっていきました。

しかし、そんな努力もむなしく、だんだんと弱って死んでいくカエルが出てきました。飼育していたカップに登るカエルを見て、D「逃げたいんじゃない？」

という声も聞かれたので、もう一度子どもたちと話し合いました。

【5月26日(水)】

川「カエルさん何でカップに登ってくるんだろうね？」

L「虫食べたいから？」K「広くないからじゃない？」M「虫食べて大きくなりたいからじゃない？」C「水が多くて溺れそうだからじゃない？」J「嫌いなものがあるから？」F「せっかくカエルになったから自由になりたいんじゃない？」I「友達に会いに行きたいとか」

川「じゃあ、友達に会いたい時はどうする？」

D「もといたところに戻してあげたらいいんじゃない？」

川「前は寂しいから逃がしたくないっていう人と、逃がしたい人がいたけれど、今は皆はどんな気持ち？」

E「かわいそう。このままじゃ生きられないかもしれない」

N「一回逃がしてまた捕まえたらいいいんじゃない？」

C「逃がしたカエルにまた会いに行けばいいんじゃない？」

B「あのカップでずっと引きこもっていたら死んじゃうかもしれない…」



毎日お世話すればするほど愛着がわいてくるカエルに、21日の話し合いでは「逃がしたくない」「寂しい」と言っていた子どもたちが、26日の話し合いでは「かわいそう」「自由になりたいのかも…」と、カエルに寄り添った考えをもち始めました。正解は1つではないと思います。子どもたちが精いっぱい考え、精一杯お世話し、愛したカエルさん。カエルの命を通して、子どもたちは大切な何かをつかもうとしているように思います。



エサを食べられずに弱っていくカエルを見るとき、教師陣はこの命を支える難しさを知っているだけに、毎日逃がしてあげたい気持ちにかられました。そのたびにどんな言葉で子どもたちに語り掛けるかを教師間で話し合ってきました。教師が「かわいそうだから逃がしてあげよう」と言うのは簡単ですが、子どもたちの考えを引き出し話し合うと、こんなにも感じ、考えていることが分かります。最後はどうなるのか？カエルの命を最後まで大切に、正解のない問いを一緒に考える時間を大切にしたいと思います。

春の自然物をいただく

川角は山菜採りが大好きです。春になるとドライブしていても目がキラキラしてきます(笑)同様に、フキノトウやフキ採りを経験し食べたことのある子どもたちは、散歩の道すがらでも「先生!フキノトウ!」「先生!フキ発見!園長先生に持って行こう!」と目がキラキラしています。何気なく通り過ぎていた景色の中に、『食べられるものがある』…このことは、人の本能に直結するからなのか?周りの景色をぐっとよく見るようになります。今年は林のワラビも教師が知らせる前に収穫が始まっていました。



タンポポの花をすりこ木でつぶして…

手稲中央幼稚園には立派な桜の木があります。毎年、おやつや弁当を桜の木の下で食べるお花見や、花びらを使った遊びにとどまらず、花びらを酢と塩で漬け込み食べることもしています。ヨモギもいい感じに育ち、そろそろお団子でも作ろうかと計画をしていたある日、H君が「先生!タンポポ食べられるんだって!」と山菜図鑑を片手に目をキラキラさせてやってきました。「タンポポ…どうやって食べたら苦くないのだろう…」そう思いながら調べた中に「ヨモギ・桜の花・タンポポの花」を使った三色団子のレシピを発見。タンポポ団子は全く味も香りも無く、癖のない味でしたが、綺麗な黄色いお団子でとても美味しかったです!



皆でお団子を作りました



希望者のみ、茹でる作業も頑張りました!

6~7月の保育について

いいこと考えた!

鯉のぼりの作り方で人魚になれるかも…!

◎夏ならではの遊びや生活を楽しめるように…

- ・コロナで閉鎖的な気分が漂う日常ですが、園では思いっきり心を開放して遊べるように、教師も水・砂・泥んこまみれになって遊びたいと思います。

◎自分なりの目的に向かって試したり工夫したり挑戦したりして遊ぶ楽しさを感じる。

- ・子どもたちのやりたいことが実現するように、じっくり試せる場・時間・材料などを一緒に考えて準備していきます。大切にしたいのは、自分の『やりたいこと』を頑張るということ。友達が挑戦していることに刺激を受けられるようにし、競うばかりでなく、助け合ったり、励まし合ったりすることで更に意欲が高まるように言葉を掛けていきたいと思います。

◎友達とイメージや考えを伝え合いながら一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように…

- ・友達と考えを伝え合うと、思い通りにならないこともあるけれど、一人でやるよりも面白くなった!友達の考えもなるほどいい考え!などに気付けるように関わっていきます。時には喧嘩になっても、教師がすぐには加わらず、自分たちで思いを伝え合い解決できるかを見守りたいと思います。

◎身近な自然物に関心を寄せ、じっくり見たり、発見を伝え合えるように…継続



学級懇談会でお伝えしたかったことをお便りでお知らせします。

今年度のこだま組のスローガンは…

友達と夢中になって遊ぶ

いましかできない やりたいことを全部やる子ども

- ・林、土・水・砂・泥・雪など幼稚園に当たり前にあるホンモノの環境の中で、やりたいことを自分たちで考えたり工夫したりすると生活がより楽しく豊かになるという実感をもてるよう、夢中になって遊ぶ生活を支えます。
- ・「何が楽しい?」「どうしたい?」など幼児の気持ちに徹底的に寄り添い、新たな遊びの一步を支えます。

友達と一緒に 考えて工夫して喧嘩して笑って助け合って お互いの良さを認め合える子ども

- ・ケンカを恐れず、互いの思いや考えを引き出しながら、よりよい生活を考え合うようにします。
- ・各々の得意なこと好きなことを存分に発揮できるようにし、友達の良さが感じられるようにします。
- ・困ったことは、教師や友達と一緒に解決できること、助け合えることを知らせていきます。

やってやれないことはない やらずにできるわけがない

- ・手先を使う環境を積極的に用意し、繰り返し取り組みます。
- ・戸外遊びをたっぷりと楽しむようにします。
- ・少し難しい動きにも挑戦したり鬼ごっこや散歩も積極的に楽しみ、歩くこと走ることでしっかりとした体力をつけていけるようにします。

